



日 本 国 際 教 育 学 会

JIES NEWSLETTER

February 2022 No. 33

ニューズレター ダイジェスト

- 会長挨拶
- 第 32 回研究大会報告
- 第 32 回総会報告
- 2020 年度研究発表会報告
- 2020 年度研究交流会報告
- 紀要『国際教育』第 28 号原稿募集
- 第 33 回研究大会のご案内
- 国際研究交流会のご案内
- 事務局からのお知らせ



白幡真紀 (仙台大学)



川前あゆみ (北海道教育大...



小野豪大【北海道教育大学...



佐藤秀樹 (青年海外協力協...

第 32 回研究大会 課題研究Ⅱ

「SDGs の展開と開発途上国の教育実践」



## 会長挨拶

### 創立 30 周年記念事業を終えて

第 31-32 期会長

佐藤千津（国際基督教大学）

本学会は 2020 年に創立 30 年という大きな節目を迎えました。2019 年に京都の大谷大学で開催された第 30 回記念研究大会に続き、創立 30 周年記念企画の一環として、2021 年 10 月に第 32 回研究大会（創立 30 周年記念大会）をオンラインで開催することができました。本学会としては初のオンラインによる大会の開催でしたが、無事に開催できましたのは大会実行委員会をはじめ、関係の皆様のご尽力のお蔭です。例年以上に多くの参加者を得ることができ、画面越しではあるものの再会を喜び合いながら、実りのある研究交流ができました。ご参加いただいた会員の皆様にもお礼を申し上げます。この間に多くの皆様が入会され、ますます活気にあふれた学会活動が行われております。

また昨年、創立 30 周年記念論集として『コミュニティの創造と国際教育—日本国際教育学会創立 30 周年記念論集—』を明石書店より刊行いたしました。本書の編集過程では、執筆者の交代や、新型コロナウイルスの感染拡大など予期せぬ事態が生じ、当初の予定より出版が大幅に遅れましたが、昨秋には皆様のお手元にお届けすることができました。本書がコミュニティを手がかりに国際教育の在り方を考える一助となれば幸いです。

その記念論集の「刊行にあたって」においても述べましたが、本学会が創立されたのは 1990 年 8 月 8 日です。前年の 1989 年には東西ドイツを分断するベルリンの壁が崩壊し、1 か月後には東西冷戦が終結して国際関係の構図が大きく変化しました。そうした新しい時代の到来とともに、国際教育をテーマとする本学会が創立されたのは偶然ではありません。当時、東京大学教育学部の教授であった松崎巖初代会長が設立趣意書において強調したのは、様々な教育課題の基礎に「人類愛に根ざした哲学」がなければならぬということでした。地球上の皆がそれぞれの幸福と世界平和のために互いに協力し、人類が直面する数多の難問に取り組むには「教育の国際化」のみならず、「教育研究の国際化」も必要であると説かれました。

あれから 30 年が経ち、国内外で新たに生じる課題はますます複雑化・多様化しているように見えます。私たちの未来には、一人ひとりが希望をもってその将来を思い描くことができる明るい社会があり、今、歩みつつあるこの道がそこへ続いていると信じつつ、研究を深めてまいりたいと思います。

一連の学会創立 30 周年記念事業が終了し、新しい年を迎えました。新たな気持ちで迎えるこれからの年月が会員の皆様にとって更なるご活躍の日々となり、学会にとっては 40 周年に向けた飛躍の時となることを切に願っております。

## 第 32 回研究大会報告

日本国際教育学会第 32 回研究大会の参画・御支援の御礼

第 32 回研究大会実行委員長  
玉井康之（北海道教育大学）

日本国際教育学会の 2021 年度の第 32 回研究大会は、皆様のおかげで無事 10 月 9 日・10 日に終了することができました。理事会・事務局・会員の皆様には大変な御支援を頂き、そのお陰で開催することができたことを厚く御礼申し上げます。

本大会は実は 2 年越しの大会となりました。当初 2020 年度に第 31 回研究大会を北海道で対面式大会にて開催する予定でした。しかし、コロナ感染症が収まることなく、残念ながら学会事務局と相談して中止せざるを得ませんでした。2021 年度も当初は、対面式とオンラインのハイブリッドで開催する予定でしたが、同様に 7～8 月に東京・大阪など全国のコロナ感染者数が急増することとなり、8 月に完全オンラインに切り替えることとしました。対面式での参加を期待していた会員の皆様には、幾度となく変更を繰り返さざるを得なかったために、大変なご迷惑をおかけしました。

しかし一方で、このような危機的な状況に対して、学会理事会・事務局や会員の皆様から温かい御支援を頂きました。当初は報告者・参加者もコロナ禍で躊躇する雰囲気もあったのですが、報告者も 24 件エントリーして頂きました。参加者も 76 名の学会参加者と公開シンポジウム的一般会員を含めて 106 名の方に参加して頂きました。分科会では英語報告分科会も設置できました。このように多くの会員の方が積極的にご支援頂いたことで、会員間の研究交流を推進することができました。

本学会としては、オンライン大会は初めてのことなので、機器操作と遠隔システム方法、予想されるダウン等のトラブル対処、時間ごとのアドレス再入力方法、各分科会等の統一管理方法、などシステムの不慣れさから、課題の所在を把握する事に戸惑いました。それでも試行錯誤のプロセスについては記録化しましたので、次の大会にもある程度引き継ぐことができると思います。

今回の実行委員会は、当初北海道教育大学と北海道大学で構成したため、各所属大学教員にかなりの宣伝を行うなど、ある程度関係者への宣伝を北海道内に行き渡らせることができました。公開シンポジウム「共生社会における先住民族政策とは-アラスカと北海道の結節点」では、北海道教育大学・北海道大学も共催団体に加わらせて頂き、また教育委員会等の 20 の地域団体から名義後援を頂きました。これで大幅に参加者が増えることはありませんが、学会の存在に気づいてくれた研究者・教育関係者は少なくなかったかもしれません。その意味では色々な地方で実行委員会を組み、大会を開催することは地方への広がりを作る上で良いことだと感じます。

課題研究 I・II も「民族共生とアイデンティティ形成」「SDGs の展開と開発途上国の教育実践」を取りあげ、現代の国際社会の重要課題について研究交流することができました。日本の中にもどんどん外国籍の子どもたちが入りつつあり、国際教育活動の役割も大きくなって来ています。この意味では日本国際教育学会の存在意義はますます大きくなったと言えます。少しずつではありますが、大会の成果を次に繋げていきたいと思えます。

最後に改めて、ご協力頂いた皆様に感謝申し上げます。

## 第32回総会報告

日時：2021年10月9日（土）17時30分～18時20分  
方法：Zoomによるオンライン

### I 報告事項

1. 第32回研究大会の開催報告
2. 2020年度（2020年8月1日～2021年7月31日）会務報告
  - (1) 学会（会員数）の現況
  - (2) 2020年度活動報告
  - (3) 2020年度決算報告
3. 2020年度会計監査報告
4. 各種委員会報告
  - (1) 紀要編集委員会報告
  - (2) 学会賞選考委員会報告
  - (3) 学会創立30周年記念論集編集委員会報告
  - (4) 研究担当報告
  - (5) 国際交流担当報告
  - (6) ニュースレター担当報告
5. その他

### II 審議事項

1. 2021年度（2021年8月1日～2022年7月31日）事業計画
  - (1) 2021年度活動計画（案）
  - (2) 2021年度予算（案）
2. 第33回研究大会の開催日程・会場について
3. 第32期選挙管理委員の選任について
4. その他

### III その他

#### 【配付資料】

- 資料1 2020年度（2020年8月1日～2021年7月31日）会務報告  
資料2 日本国際教育学会 2020年度(2020年8月1日～2021年7月31日)会計決算報告  
資料3 紀要編集委員会報告  
資料4 日本国際教育学会 学会賞・奨励賞選考委員会 報告  
資料5 学会創立30周年記念論集の出版について  
資料6 2020年度活動報告 日本国際教育学会 2020年度研究発表会について  
資料7 日本国際教育学会 若手・留学生の研究交流会 実施報告  
資料8-1  
日本国際教育学会 2021年度（2021年8月1日～2022年7月31日）活動計画（案）  
資料8-2  
日本国際教育学会 2021年度（第32期）予算（案）  
（会計年度：2021年8月1日～2022年7月31日）  
資料9 日本国際教育学会の次期大会（第33回大会）の開催について

## 2020年度研究発表会報告

研究担当理事  
大谷杏（福知山公立大学）

2021年3月6日（土）、Zoomを用いたオンラインによる「日本国際教育学会2020年度研究発表会」が開催された。当日は16名が参加、7名から研究発表があった。

日本国内の事例に焦点を当てた分科会①では、宗像晋路会員（早稲田大学大学院）から、公立学校の特別活動を背景とする人間関係形成、林静会員（東京外国語大学大学院）から、日本のトラッキング研究の展開と課題、島美佐子会員（早稲田大学大学院）から、静岡市のハラール給食導入に関する報告が、海外の事例を扱った分科会②では、田中志歩会員（広島大学大学院）から、バングラデシュ少数民族ムロの村民の教育に対する意識、相沢友紀会員（広島大学大学院）から、パラオ共和国の初等教育における歴史教育、劉琦会員（早稲田大学大学院）から、中国の教育ガバナンスにおける海外発祥NGOの参与の仕方や特徴、川崎典子会員（宮崎大学）から、マーシャル諸島共和国の現代の社会科教育に関する報告があった。

今回は日本国内からだけでなく、海外からの発表もあったことから、現地の状況が伝わる音声等も同時に届けていただき、参加者が海外の雰囲気を実タイムで体験できるなど、今後のオンライン開催の可能性を感じられる研究会となった。

開催に向けてご尽力くださった全ての皆様に厚く御礼申し上げます。

### 研究発表会に参加して

相沢友紀（東京都立鹿本学園／広島大学大学院（院生））

「パラオ共和国の初等教育における歴史教育－南洋群島教育史との関連および考察－」という標題で発表を行なった。パラオの歴史教育において、日本統治時代に編纂された南洋群島教育史との関連性を明らかにしようと試みるものである。内容は、①パラオにおける歴史教育のなかで、日本とその関連事項の取り扱いについてパラオで使用されている教科書や教材等の記述内容を研究②南洋群島教育史からパラオの歴史教育に記載されている事実と同じ箇所を見出し、日本統治時代がもたらすパラオの歴史教育への影響を考察③パラオ教育省社会科教育専門官への聞き取りによる日本統治時代がもたらすパラオ歴史教育への影響を考察、という構成で発表した。総括として、南洋群島教育史とパラオ歴史教科書の類似点は少なくないことを指摘しておきたい。歴史教科書の中でも日本統治時代の内容については特化して章立てされていることやインタビュー内容からも、スペイン及びドイツ統治時代と比較して日本統治時代の影響は非常に大きいのではないかと考察する。本研究の今後として、日本統治時代のことを伝え聞いた世代に聞き取りを広げていくとさらに研究が深掘りできるのではないかと考える。

## 2020 年度研究交流会報告

国際交流担当理事

下田誠（東京学芸大学）

2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた取り組みにより、研究活動や研究者間の交流に大きな影響があった。こうした現状をふまえ、国際交流担当では若手・留学生応援企画として、「オンライン時代の大学における学びの意義とは」をテーマに交流の場を設けた。2021 年 3 月 13 日（土）13 時 30 分から 15 時の日程で Zoom を使用して開催した。当日は下田誠（国際交流担当理事）による「コロナ禍の学生交流—その実際と課題」と題する話題提供があり、続けて森下颯会員（早稲田大学大学院）による「コロナ禍における学校臨時休業中の教育活動」と題する発表があった。下田報告では、所属大学における国際交流に携わってきた立場から、香港民主化デモや新型コロナウイルスへの対応等に追われた特別な 1 年の経験を報告した。森下報告の概要については次の記事を参照いただきたい。参加者は 7 名であった。

当日はコロナ禍における研究活動の悩みや課題、克服法などを率直に語り合い、国際教育分野におけるポストコロナ時代の研究活動を考える機会となった。

### 研究交流会に参加して

森下 颯（群馬県立伊勢崎興陽高等学校）

2021 年 3 月 13 日に開催された日本国際教育学会若手・留学生研究交流会では、コロナ禍における学校臨時休業中の教育活動についての研究に関する報告を行った。本研究は公立小・中学校の教職員に対するアンケート調査によって、2020 年 3 月から 6 月にかけての学校臨時休業中の教育活動について調査・分析することを目的としている。

調査結果から、休業期間中の学習指導において教員の自己評価にもっとも影響を与えていた指導の手段はオンライン型授業であった。一方、児童・生徒の個々の学力差、およびオンラインシステムの整備などに関する課題がみられた。また、休業期間中の生徒指導については、教員の自己評価にもっとも影響を与えていた指導の手段は児童・生徒が利用できる相談窓口等の設置であり、児童・生徒の実態把握や家庭との連絡などに関する課題がみられた。休業期間中の教育活動全般については、個人情報取扱いなど在宅勤務における課題が多く挙げられ、また、学校再開後はコロナ対策に負担を感じている教員が多いことがわかった。

調査結果全体を踏まえると、学校臨時休業下においてはコロナ対応に関するガイドラインの作成や通信環境、在宅勤務体制の整備等の面で課題が生じていたことが明らかになった。

## 紀要『国際教育』第28号原稿募集

日本国際教育学会紀要編集委員会では『国際教育』第28号(2022)の発刊に際し、自由投稿研究論文、研究ノート、調査報告、教育情報、資料紹介を募集いたします(2022年3月1日必着)。

原稿の投稿に関しましては、本学会公式ウェブサイト(<https://jiesofficial.com/>)の「学会紀要」のページで最新情報をご確認ください。会員の皆さまの積極的な応募をお待ちしております。

CALL FOR PAPERS: JOURNAL of INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 28

Submissions to the 28th edition of the Journal of International Education are now being accepted, with a deadline of March 1, 2022. Authors making submissions in English should review the Additional Guidelines for English Manuscripts. Any manuscripts not conforming to this procedure will not be accepted. Authors should also refer to the latest version of this procedure in addition to the Provisions for Editing Bulletins of JIES on the JIES website (<https://jiesofficial.com/>) before submission.

## 第33回研究大会のご案内

第33回研究大会実行委員長  
北野秋男(日本大学文理学部)

日本国際教育学会「第33回研究大会」を、2022年10月29日(土)と10月30日(日)の両日にわたり、日本大学文理学部キャンパス(会場3号館など)にて開催させて頂くことになりました。本学部を代表して厚く御礼申し上げますとともに、会員の皆様の多数のご参加をお待ち申し上げます。

さて、会場となります本学部は交通の便もよく、新宿からは約30分程度でアクセス可能です。また、本学部は学生数約1万人という日本大学の中では最大規模の学部ですが、キャンパスは近年に多くの校舎が新築・改築され、広い敷地の中で開放的な雰囲気となっています。しかしながら、今大会においても前回大会同様、コロナ感染、もしくは新たな変異株の出現により、対面式での開催が出来るか否か不確定な状況にあります。

現段階では、対面とオンライン方式(ZOOM)の両面での開催準備を行い、8月末時点での感染状況を見極めて、対面かオンラインかのいずれかを決定いたします。会員の皆様には、ご迷惑・ご心配をおかけしますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 国際研究交流会のご案内

### 国際教育研究のスタートアップ —若手研究者のアカデミックキャリアパスを考える—

本年度、国際交流担当では若手会員の国際交流促進のため、若手のアカデミックキャリアパスにかかわり、会員の皆様が情報を共有し、交流を深める機会を設けました。この1・2年、国際環境は大きく変わりましたが、未来の国際教育を担う若手会員と情報を共有する場をもちたいということは、コロナ禍にかかわらず、私たちがこれまでも、そしてこれからも大事にしていきたいと考えている点です。

そこで今回の国際交流フォーラムでは海外在住の会員と、海外の大学院での学びやアカデミックキャリアの形成、アカデミックポスト獲得まで等について情報交換をおこない、新たな「気づきの場」となることを期待しています。会の進め方は、話題提供者に10分～15分ほどお話いただき、その話題にそって参加者と意見交換する時間を設けることを想定しています。前年度の国際交流の企画においても活発な交流がもたれました。会員の皆様におかれましては、お気軽にご参加ください。参加申込の詳細はメールやHPでご案内します。

日時：2022年3月21日（月・祝） 13時30分～15時00分（13時開場）  
申込：3月17日（木）（参加申込締切） 下記Googleフォームにより参加受付

<https://x.gd/IERQR>



※なお、詳細は参加申込者にメールで後日ご案内いたします。

形式：オンライン・ライブ形式（Zoom 使用）  
言語：日本語  
対象：本学会会員

報告：

- （1）「海外の大学院で学ぶとは—加・ブリティッシュコロンビア州での経験から」  
斎藤翼（ブリティッシュコロンビア大学大学院教育学部博士課程）
- （2）「アカデミックキャリアの形成に向けて—米・アラスカ州とオレゴン州での経験から」  
伊藤太陽（オレゴン大学教育学部博士課程）
- （3）「テニユアポストを獲得するまで—日本の場合」  
下田誠（東京学芸大学次世代教育研究センター准教授）

問い合わせ先：国際交流担当：下田誠（[shimoda@u-gakugei.ac.jp](mailto:shimoda@u-gakugei.ac.jp)）  
ご連絡の際はメールアドレスの■を@に置き換えてください。

## 事務局からのお知らせ

### 1. 連絡先・ご所属変更を至急お知らせ下さい。

所属変更等にもない会員資格や連絡先に変更がある方がおられましたら、事務局までメール(jies\_jimukyoku■jies.gr.jp ■を@に置き換えてください)にてご一報ください。また2022年には役員選挙が行われます。会員名簿に基づき、所属ブロックの確定や選挙人及び被選挙人名簿の作成が行われますので、ご協力のほどお願い致します。

### 2. 会費納入のお願いについて

会費納入にご協力を宜しくお願い申し上げます。なお、請求書と行き違いに既に納入済の場合はご容赦ください。

郵便振替口座名義：日本国際教育学会 口座番号：00130-7-124562

ゆうちょ銀行 〇一九 店（ゼロイチキユウ店）当座 0124562

### 3. 新入会員紹介

2020年度第3回理事会（2021年4月18日）、2021年度第1回理事会（2021年10月8日）、2021年度第2回理事会（2021年12月12日）で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します。

会員限定公開コンテンツにつき非掲載とします。

### 4. ホームページのリニューアル

2021年5月に学会公式ホームページの完全リニューアル版を公開しました。リニューアル版ホームページでは、学会情報へのアクセスにおける利便性の強化と学会のイメージをアピールできるデザイン性の向上を図り、レイアウト・ヴィジュアルの大幅な刷新を行いました。また、日本国内外問わず広く学会情報を発信するため、海外から円滑にアクセス・閲覧できるようドメインを切り替えたことに加え、全面にわたって多言語自動翻訳機能への対応が可能になりました。

学会情報の発信および会員の皆様の研究支援のためのプラットフォームとして、より便利にご利用いただけるよう運営して参ります。



日本国際教育学会ホームページ

日本国際教育学会 Newsletter No. 33

編集発行 日本国際教育学会 代表 佐藤千津

〒162-8433 東京都新宿区市谷本村町 10-5  
JICA 地球ひろば

発行所 (公社) 青年海外協力協会 佐藤秀樹気付  
[jies\\_jimukyoku@jies.gr.jp](mailto:jies_jimukyoku@jies.gr.jp)  
<http://www.jies.gr.jp>

発行年月日 2022 年 2 月 15 日